

6. 林業普及指導

(1) 農林水産技術推進会議森林活用分科会における要望課題検討の採択状況

年 度	要 望 課 題	区 分
平成14年度	1. 房総のヒメコマツの保全について	B
	2. 千葉県における里山林整備指針の作成	B
	3. 樹皮を、ペレット状やボード状に加工しての有効利用の検討	B
	4. 丸太の葉付き乾燥技術の確立と人工乾燥コスト低減に及ぼす影響	B, A
	5. 間伐手遅れ林分の管理技術指針の作成	C→C→B
平成15年度	1. マテバシイ林の管理方針について	C
	2. 低湿地に造成した海岸防災林管理の検討	A
	3. 富津海岸保安林における既設防風施設（防風ネット）の見直しについて	B
	4. 森林土木事業における法面緑化工法の検討	A
	5. マテバシイ林の防災的見地からの適正管理	C

注) 区分（平成14年度から採用区分が変更）

- A 新規課題として採用する B 新規課題として採用しない
C 現地調査のうえ検討する D 技術調整部会に付託する

平成16年度	1. 第54回全国植樹祭の植樹会場で造成した森林の今後の調査・検討	A2
	2. 省力・低コストな森林造成技術の開発	C
	3. 木質バイオマス資源の再資源化システムの検証及び生産される炭化物の性能分析・用途開発	C
	4. 木材の燻煙乾燥技術について	A2
	5. マテバシイ林の防災的見地からの適正管理	A2
平成17年度	1. 原木シイタケの新しい害虫フタモントンボキノコバエの防除法の開発	A2
	2. 森林療法プログラムの作成及び効果検証	A2
	3. 九十九里海岸保安林におけるクロマツの天然更新技術の確立	B
	4. マッシュルームの害虫対策について	A2
	5. 木質バイオマス資源（製材残材、果樹・街路樹剪定枝、林地残材等）の再資源化（炭化処理）システムの検証及び生産される炭化物の性能分析・用途開発	B→A3, A2
	6. 省力・低コストな森林造成技術の開発	B→A3
平成18年度	1. サンプスギ材の強度試験	A1
	2. 針葉樹間伐材を利用したキノコ（ナメコ）栽培試験	C
	3. 竹材の利活用について	B
	4. 千葉県における竹林の拡大への対応について	A1, B
	5. 荒廃森林の及ぼす影響と将来予測について	A3
	6. 森林の公益的機能の評価の見直しについて	B→A3
	7. 有害獣被害対策技術の確立	A2
	8. 鳥獣被害を受けにくい作物の選定	A2
	9. 鳥獣害を受けにくい集落の環境づくり	A2
	10. マテバシイとイノシシを活用した地域特産品開発	B
	11. 九十九里海岸保安林におけるクロマツの天然更新技術の確立	B→C
平成19年度	1. 木質チップを燃料とした施設園芸の経済性に関する研究	C
	2. 有機肥料によるたけのこ栽培に関する生産技術指針の作成	A3
	3. 放置竹林の効果的な拡大防止と森林の再生	A3
	4. 県民の森を用いた森林療法プログラム実施のための森林環境づくりとコース設定の研究	A2
	5. なしのせん定枝を利用したきのこと類の栽培技術の開発	A1
	6. サンプスギ製材品の強度及び病原菌のその後の活動について	
	① サンプスギ製材品の強度試験	A1
	② 非赤枯性溝腐病付着材の製品における病原菌の活動	A1
	③ 非赤枯性溝腐病付着剤が人体に及ぼす影響	C

平成20年度	1. 「ビタミンB1いっぱいきのこ」栽培技術の追加試験 ①「ビタミンB1いっぱいきのこ」の追加施用技術開発 ②「ビタミンB1いっぱいきのこ」技術の「原木シイタケ」への適用 2. 廃培地を使用した菌床きのこ栽培技術の開発	A3 A3 A3
平成21年度	1. 木質バイオマスの効率的な生産・流通システムの構築に向けた調査研究 2. 千葉県における長伐期林業の成立に向けた生産目標の設定と施業基準の策定 3. サンプスギ心材の強度性能及び耐久性能の解明 4. 千葉県における放置竹林対策について 5. 高齢級過密森林の管理手法と強度間伐導入基準の確立 6. マテバシイ材の活用方法とマテバシイ林管理技術の確立 7. マテバシイ林の伐採と更新 8. 松くい虫被害に強い「抵抗性クロマツ」の選抜・育種 9. 千葉県に適した無花粉スギの育種 10. スギ非赤枯性溝腐病抵抗性クローン選抜のための早期検定技術開発 11. スギカミキリの被害対策について 12. スギカミキリ被害の経済的・効率的防除方法 13. 北総地域特有の地形に対応した効率的な伐採・搬出技術の開発 14. ヤマビルの生理生態的研究開発による効果的な防除法 15. 九十九里海岸防災林におけるクロマツの代替樹種の選定等施業方法の策定 16. 在来草本種による法面緑化手法の確立	A1 C、B C A3、A2 A3 A2、C、A3 A3 A2 A1 A1 A1、C A1 B C A2 A3
平成22年度	1. 簡易なスギ溝腐病抵抗性判別技術の確立 2. 非赤枯性溝腐病被害木を利用した鳥獣被害防護柵の開発 3. 害虫による菌床きのこの被害防止に関する省力的で効果的な対策方法の研究 4. ヒメコマツの種苗生産について 5. 海岸県有保安林の維持管理手法の検討 6. 「健康と癒しの森30選」等のセラピー効果の検証と効果的な活用方法の開発 7. サンプスギ材の外観的特徴の解明 8. 千葉県における長伐期林業の成立に向けた生産目標の設定と施業基準の策定(②、③) 9. 北総地域特有の地形に対応した効率的な伐採・搬出技術の開発	C A2 A3、A3、C A1 A1、A1、A2、A3 A3、C C、A3、A3 H21からの継続課題 ②：B→A3、③：B→A3 H21からの継続課題 B→C
平成23年度	1. 海岸防災林保全・整備技術の多様化 2. 海岸防災林における塩害の状況把握と対策の検討 3. 里山活動の成果の検証	B A3 A3

注) 区分(平成16年度から採用区分が変更)

A1 新規課題として採用する

A2 現在実施中の研究課題で対応する

A3 現地において問題解決する

B 現地調査のうえ検討する

C 新規課題として採用しない

(2) 農林総合研究センター森林研究所における平成23年度試験研究課題一覧表

I 生産力を強化し農林水産物を安定供給する研究

(2) 農林水産物の安定供給を支える技術の開発

11 農林作物の野生鳥獣被害軽減化技術の開発

2 森林・林業に対する獣類被害実態の解明と被害軽減化技術の検討

①造林地における低コストのシカ防護柵の開発(H22-H24)

②林縁及び耕作放棄地における獣害の少ない特用樹・山菜栽培の検証(H22-H26)

II 環境に調和した農林水産業を推進する研究

(1) 県民の暮らしを守る環境保全型農林水産技術の開発

15 環境にやさしい森林管理技術の開発

1 スギ・ヒノキ花粉の飛散抑制技術の開発

③ヒノキ花粉飛散量予測のための雄花観測技術の開発(H22-H25)

④人工林施業の長伐期化に対応した将来木選定の指針策定(H23-H25)

⑤花粉の少ないスギ植栽地における雄花多産木間伐の効果の検証(H23-H28)

(2) バイオマスなどの有効利用技術の開発

17 バイオマス等の地域資源・未利用資源の活用技術の開発

1 未利用木質バイオマスの利活用技術の確立

⑥木質バイオマスのチップ化による利活用技術の確立(要望課題)(H22-H25)

⑦スギ非赤枯性溝腐病被害材の製材利用の可能性の判定(H23-H25)

III 農林水産資源の維持増大と多面的機能を保全する研究

(1) 農林水産資源の持続的利用を支える管理技術の開発

20 森林の病虫害対策技術の開発

1 環境にやさしい松枯れ防止技術の開発

⑧海岸砂地環境とマツ材線虫病発症の関係解明(H23-H27)

⑨松くい虫防除のための無人ヘリコプターによる薬剤散布の効果(H23-H25)

2 穿孔性害虫の被害防除技術の開発

⑩森林管理を主体としたスギカミキリの被害低減効果の検証(要望課題)(H22-H26)

3 スギ非赤枯性溝腐病対策技術の確立

⑪スギ非赤枯性溝腐病の拡大防止に効果的な被害材処理技術の確立(H23-H26)

(2) 農林水産資源の増殖・育苗技術の開発

21 森林資源の維持増大に資する種苗生産技術の確立

1 林業用優良品種の開発と特性把握

⑫スギ非赤枯性溝腐病抵抗性クローンの苗木による選抜技術の確立(要望課題)(H22-H24)

⑬千葉県に適した雄性不稔スギ候補の作出(要望課題)(H22-H26)

2 花粉症対策ヒノキ・スギ品種の普及拡大技術開発と雄性不稔品種開発

⑭花粉症対策ヒノキ・スギ品種の普及拡大技術開発と雄性不稔品種開発(H22-H25)

3 森林の多面的機能発揮に適した樹種の育成技術の開発

⑮マツノザイセンチュウ抵抗性クロマツにおける千葉県に適した系統の選抜と早期供給方法の確立(H23-H29)

⑯ヒメコマツの保全・回復を目的とした増殖技術の確立(H23-H25)

(3) 森林・農地・水域など、地域資源の持つ多面的機能の評価と維持増進・活用技術の開発

22 森林資源の保全及び森林の活用技術の開発

1 防災林の管理技術の確立

⑰海岸低湿地に造成した海岸防災林管理技術の確立(H23-H27)

⑱盛土を用いない経済的なクロマツ海岸防災林造成技術の確立(H23-H27)

注) I～Ⅲは、千葉県農林水産業試験研究推進方針(平成23～27年度)の基本目標

(1)～(3)は、同重点化の方向

11、15、17・・・は、同大課題

①～⑱は、研究課題

()内は、研究期間

(3) 平成23年度林業普及指導員の活動実績

(単位：時間)

区 分		普 及 指 導 活 動				調 査 研 究	情 報 収 集	連 絡 調 整		普 及 指 導 の 準 備	普 及 関 事 報	研 修 講 受	そ の 他	計
		直 接		間 接 (電話等)	小 計			試 験 研 究 ・ 教 育 機 関	市 町 村 其 他 の 関 係 機 関					
		個 別 指 導	集 団 指 導											
計		2,084.00	1,706.25	1,047.50	4,837.75	22.00	1,420.75	212.50	1,478.00	3,454.75	724.25	518.50	2,459.50	15,128.00

普 及 対 象 別 内 訳	林 家	961.25	472.75	369.25	1,803.25	
	会社等の事業体	90.75	17.75	76.25	184.75	
	市 町 村	423.75	105.00	373.75	902.50	
	森林組合	450.00	22.50	86.00	558.50	
	林 研グループ	79.50	163.50	93.75	336.75	
	そ の 他	78.75	924.75	48.50	1,052.00	

注) ・平成16年度の森林法改正により、平成17年4月から従来の林業専門技術員と林業改良指導員の資格が「林業普及指導員」に一元化された。
 ・平成23年度の林業普及指導職員数は、普及指導員8名である。

(4) 平成23年度林業普及指導員を対象とした研修

研修の名称	目的等	対象者	人員	時期	場所	講師	研修等の内容
特技研修	中央研修を受けた普及指導員から最新の情報を得ることを目的とする	林業普及指導員 他	11人	H23. 8. 9	千葉県森林会館	・横田上席指導員 ・鶴丸主事 ・白石主幹、西野副主幹 ・羽山指導員 ・海老根指導員	・特用林産 ・森林総合利用 ・地域森林計画関係の林野庁会議報告 ・普及指導員新任研修 ・准フォレスター育成研修
	チェンソーの目立て研修	林業普及指導員 他	30人	H23. 12. 15	山武市さんぶの森中央体育館	・林野庁林業機械化センター加利屋義広主任機械化指導官 ・同名元亮介機械化指導官	・振動障害防止及び目立ての仕方の講義、参加者持参のチェンソー目立ての実習

(5) 千葉県指導林家・林業士認定状況

(単位：人、平成24年3月31日現在)

普及指導区名	指 導 林 家	林 業 士	計	備 考
千 葉	9	2	11	女性 1 名（林業士）
東 葛 飾	1	1	2	女性 1 名（林業士）
印 旛	6	4	10	
香 取	2	5	7	
海 匝	1	1	2	女性 1 名（林業士）
山 武	9		9	女性 2 名（指導林家）
長 生	8	2	10	
夷 隅	8		8	
安 房	9		9	女性 1 名（指導林家）
君 津	6		6	
計	59	15	74	女性6名

(6) 林業機械・器具の現況

番 号	機 械 種 名		備 考	単 位		
					地方公共 団体	学校
1-1	索道	索道重量式		セット		
1-2		索道動力式		セット		
2-1	集材機	小型集材機	動力10ps未満	台	1	
2-2		大型集材機	動力10ps以上	台	1	
3	モノケーブル		ジグザク集材施設	台		
4	リモコンウィンチ		リモコン、ラジコンによる可搬式木寄せ機	台	1	
5	自走式搬器			台	2	
6	モノレール		懸垂式含む	台		
7-1	運材車		動力20ps未満のもの	台		
7-2			動力20ps以上のもの	台	4	
8-1	ホイールタイプトラクタ		林内で集材等の作業を行うホイールタイプのトラクタ	台		
8-2	クローラタイプトラクタ		上記でクローラタイプのもの	台		
9	育林用トラクタ		主として地拵え等の育林作業用	台		
10	フォークリフト			台	4	1
11	フォークローダ			台		
12-1	クレーン	運材機能なし	トラッククレーン、ホイールクレーン等	台	2	
12-2		運材機能あり	クレーン付きトラック	台		2
13-1	グラップル	運材機能なし	グラップルローダ作業車	台		
13-2		運材機能あり	グラップルローダ付きトラック	台	1	
14	トラクタショベル		搬出、育林用等に係わる土工用	台		1
15	ショベル系掘削機械		搬出、育林用等に係わる土工用	台	2	1
16	チェーンソー			台	53	7
17	チェーンソーリモコン装置		リモコンチェーンソー架台	台		
18	刈払機		携帯式刈払機	台	35	10
19	植穴掘機			台		
20	動力枝打機		自動木登り式	台	2	
21			背負い式等の上記以外のもの	台		
22	苗畑用トラクタ			台		
23	樹木粉碎機		伐倒木、伐根、枝条等を粉碎する機械	台	1	1
24	フェラーバンチャ		立木を伐倒、集積する自走式機械	台		
25	スキッド		牽引式集材専用のトラクタ	台		
26	プロセッサ		枝払い・玉切りする自走式機械	台	1	
27	ハーベスタ		伐倒・枝払い・玉切りする自走機械	台		
28	フォワーダ		積載式集材専用車両	台	1	
29	タワーヤーダ		元柱を具備した自走式機械	台	2	
30	スイングヤーダ		簡易索張方式に対応し、かつ旋回可能なブームを装備する集材機械	台		
31	その他の高性能林業機械		従来の高性能林業機械上記7機種以外の高性能林業機械	台		
32	グラップルソー		巻立・玉切り自走式機械	台	1	

注) 対象の林業機械は、主として伐採、搬出、育林に使用されるもの。(製材工場で使用されるものは含まない。)

(平成23年3月31日現在)

所 有 区 分 別 数 量							
会社	森林組合	その他組合等		集落	研究機関	個人	合計
		支援センター	その他				
28						1	29
1	1		2				3
14	1		2		1	27	46
17	1					8	27
	1		1	1		7	10
1	6					9	17
2	1						5
16	4		7			26	53
1						50	55
	1						1
10							10
41	7		1		1	32	87
22	1					2	25
16						5	23
58	6		1			25	92
10	2					4	16
9	1					3	14
9						1	11
21	4		4			32	64
486	51	10	107	3	6	2,754	3,477
206	28	10	45		8	4,070	4,412
1	2					1	4
	7		2		1	40	52
	2					1	3
					2	5	7
12	6				1	1	22
							1
	1						2
							2
11							12

(7) 平成23年度教育の森の利用状況

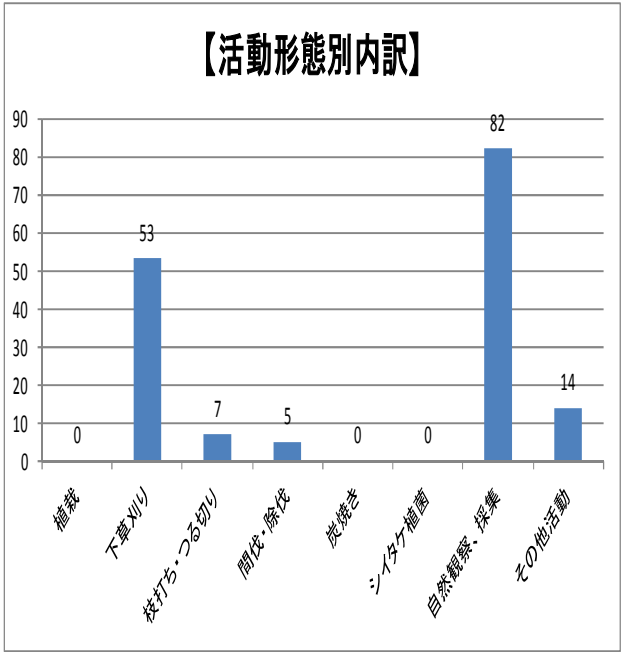
(平成24年3月31日現在)

地域	利 用 回 数			利 用 人 数		
	学校の利用	その他の利用	計	学校の利用	その他の利用	計
千 葉	0	33	33	0	268	268
(うち市原市)	0	23	23	0	68	68
東 葛 飾	1	12	13	10	105	115
印 旛	2	0	2	130	0	130
香 取	0	0	0	0	0	0
海 匠	1	13	14	10	218	228
山 武	3	0	3	70	0	70
長 生	0	8	8	0	458	458
夷 隅	4	0	4	328	0	328
安 房	0	2	2	0	6	6
君 津	82	0	82	2,654	0	2,654
計	93	68	161	3,202	1,055	4,257

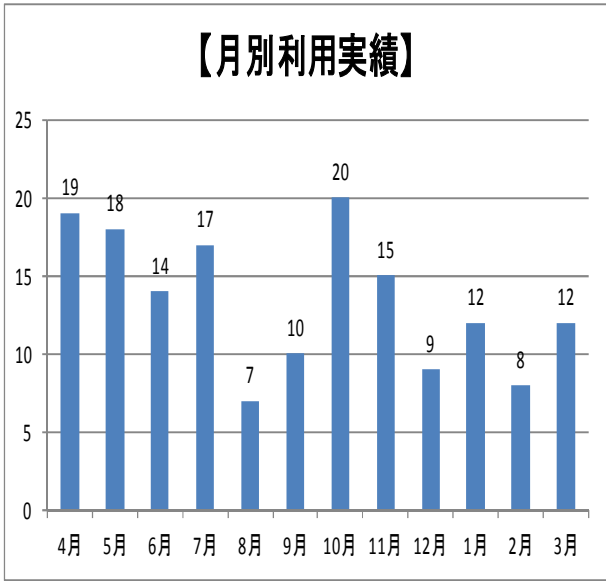
注1) 学校の利用は主として授業時間での利用

2) その他の利用とは1) 以外の利用を指す

単位:回数



単位:回数



(8) 教育の森の認定数

(平成24年3月31日現在)

地域		年度別認定数							
		5～9	10	15	19	20	21	22	23
千葉	計	13	13	12	11	11	11	11	10
	うち新規	13					1		
	うち再認定		4	3	1	3	2	2	1
(うち市原市)	計	5	5	4	3	3	3	3	2
	うち新規	5							
	うち再認定		1				1	1	
東葛飾	計	4	4	5	5	5	5	5	5
	うち新規	4		1					
	うち再認定		2	2		3	2		
印旛	計	16	16	14	9	17	14	12	12
	うち新規	16							
	うち再認定		5	4		12			
香取	計	13	13	13	13	10	6	6	6
	うち新規	13		1					
	うち再認定		4	6	1	4		1	
海匝	計	9	9	10	8	5	2	2	2
	うち新規	9		1	1				
	うち再認定		3	3		1			1
山武	計	14	14	15	17	16	14	15	14
	うち新規	14	1	1	2			1	
	うち再認定		4	5	1	5	4		3
長生	計	16	16	14	15	15	16	13	12
	うち新規	16				1			
	うち再認定		5	4	1	4	4		2
夷隅	計	8	7	7	5	4	3	2	2
	うち新規	8							
	うち再認定		1	1	2				
安房	計	15	15	14	11	10	10	10	8
	うち新規	15							
	うち再認定		5	4	1	3	3	1	
君津	計	16	18	20	20	19	19	19	18
	うち新規	16	2	1	1				
	うち再認定		4	6	1	5	5	4	3
計		124	125	124	114	112	100	95	89
	うち新規	124	3	5	4	1	1	1	0
	うち再認定	0	37	38	8	40	20	8	10

注) 再認定については、認定期間の終了日が属する年度の実績とする。

(9) 教育の森の利用実績の推移

地 域	年 度 別 利 用 回 数							年 度 別 利 用 人 数						
	5～18	19	20	21	22	23	計	11～18	19	20	21	22	23	計
千 葉	396	343	90	104	325	33	1,291	2,879	1,641	576	845	1,604	268	7,813
(うち市原市)	—	26	20	22	22	23	113	—	76	55	79	38	68	316
東葛飾	37	13	13	14	12	13	102	1,036	233	160	164	98	115	1,806
印 旛	94	4	4	2	3	2	109	8,518	431	277	69	145	130	9,570
香 取	26	7	7	3	3	0	46	643	330	252	99	101	0	1,425
海 匝	23	3	6	10	12	14	68	306	170	192	338	411	228	1,645
山 武	157	22	14	17	27	3	240	4,220	649	388	279	287	70	5,893
長 生	92	18	26	33	28	8	205	3,081	562	540	385	365	458	5,391
夷 隅	74	13	13	13	7	4	124	8,414	1,664	1,231	1,231	604	328	13,472
安 房	60	6	7	7	2	2	84	985	41	56	51	19	6	1,158
君 津	630	94	58	95	76	82	1,035	32,934	3,378	2,707	4,977	2,430	2,654	49,080
計	1,589	523	238	298	495	161	3,304	63,016	9,099	6,379	8,438	6,064	4,257	97,253

注) 平成10年以前の利用人数はデータがなく不明。